

ENGEL BUNKA

Mailed in Sept 14

園藝文化

第一號

目次

會報發刊に際して	島津忠重 (1)
花盲	本田正次 (2)
花卉品種の分類	宮澤文吾 (4)
遮光材料の經濟的使用と其可否	穗阪八郎 (6)
園藝メモ	松崎直枝 (表紙、 ⁸ / ₈ 、2)
ダリヤの變遷と現在の傾向	吉村幸三郎 (9)
古きばらに就て	J.L.プロベン (12)
ガーデンビューロー報告	轟いばら譯 (12)
事業經過報告18-22年度	伊藤東一 (17)
協會だより・編輯後記・園藝文化協會案内	(19)

97



社団法人 園藝文化協會 發行

園藝メモ 理事 松崎直枝

◇紫蘇と唐辛子のビタミン

シンと唐辛子のビタミンに就て昭和十九年に北里研究所の藤田秋治氏の「醫學と生物學」に發表せられたものを見ると次の様になつて居る。

ビタミン 100瓦中		A國單		
	B1	B2	C	
唐辛子 赤	230	150	220	
青	190	130	80	
ピーマン	100	70	110	
紫 蘇 赤	4,000	80	15	
青	4,000	80	25	

古來紫蘇や唐辛子調味料に使用して居た事は決して理由のない事ではなく只單に辛いか香氣があるからだとか云ふ様な理屈でなく實際生理上十分の榮養價值として充分攝取せらるゝ分量がある事が最近の榮養化學で證明せられたわけである。聞く所によると最近米國から唐辛子の注文が來ると云う様な事は何のためかと思つて居たら只調味料と云うのでなく實理上の榮養分に使用したいと云ふアメリカ式生活の一助の資源としたのである。大紫蘇で上海紫蘇と稱せらるゝ葉の裏が一寸紫のある種類は解熱劑にして此れに過ぎたものはなひと云ふ事を此使用した人から聞いた事もある。

◇北米アラバマ産新種百合

虹の百合 Lilium triollae

昨年北米アラバマ州南端でペンシルバニア州の マーリー G (ヘンリ夫) 人が美しい黄金色の鬼百合式の反曲する百合の花を發見した。花辨には薄褐色の斑點があり六本の雄蕊と雌蕊の有様は鬼百合に似て居る。美しくしたので虹百合(學名の義譯)として發表せられたと

(三十一三、日米科學文化通信)

園藝文化協會案内

社團法人園藝文化協會は主として園藝植物の調査研究を行ふと共に次の様な附帶事業を行つて居ります。

- 一、優良品種の紹介 優良品種の詳しい調査をして其臺帳を作成する旁ら文化財として眞價のある品種は新古や和洋を問はず、特長其他を詳述して權威のある紹介を致します。
- 一、優良品種の頒布 右の紹介を行ふと共に適當な品種の種苗を時々會員に頒布致します。之は其の都度會員に通知して希望者に頒布致します。
- 一、研究会、講演會、試食會、品評會、等の開催 大體毎月一回開催の豫定です、會員は出席が出來ます。
- 一、ガーデニングロー(園藝輪旋所)を東京都日比谷公園内に開設致して居ります。
- 一、質疑應答 品種の鑑定、品位の判定、新品種の傾向、栽培技術、文獻園藝關係諸團體の情況等に就きそれぞれ専門家からお答へ致します。
- 一、會報の刊行 事業の概要報告を兼ね研究記録等を蒐めて、會報を刊行致します。

第二章 目的及事業

- 第三條 本會ハ園藝ニ依ル文化ノ進展ヲ圖リ以テ情操ノ陶冶ニ資シ併セテ美育ノ徹底ヲ期スルヲ目的トス
- 第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲メ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、園藝植物ノ調査研究
 - 二、園藝ニ關スル文獻ノ調査研究並ニ蒐集
 - 三、研究会、講演會等ノ開催
 - 四、會報、冊子等ノ刊行
 - 五、其他適切ナル事項
- 第三章 會 員
- 第五條 本會ノ會員ヲ分チ左ノ四種トス
 - 一、普通會員
 - 二、特別會員
 - 三、贊助會員
 - 四、名譽會員
- 第六條 會員ハ左ノ會費ヲ納付スルモノトス
 - 一、普通會員 年 額 金百圓也
 - 二、特別會員 年 額 金參百圓也
 - 三、贊助會員 一時金 金二千圓以上
- 第七條 普通會員、特別會員又ハ贊助會員タラントスルモノハ所定ノ入會申込ヲナシ理事會ノ承認ヲ經ルモノトス、名譽會員ハ理事會ノ決議ニ依リ推薦スルモノトス

(下略)

會報發刊に際して

社団法人園藝文化協分會 島津忠重

天恵の氣候風土と、植物を愛好する國民性に依り、我國の園藝は既に徳川時代から、優れた歩みを續け、サクラ、ツバキ、キク、ハナシヨウブ、ボタン、サクラソウ等の優良品種が數多作出されて居るのは申すまでもなく、之に加ふるに歐米から次々に導入された品種も獨特の技術に依つて、異常な發達を遂げて來て居り、世界の水準を凌駕するものも少からず栽培されていたのであるが、それにも拘らず、之を統一して組織立て、科學的に進歩發達させ普及させる機關が全く欠けて居り、何等見るべきものがない状態であつて常に遺憾に思つていたのである。

自分は、大正十年と昭和四年の二回渡英して、約三年宛滞在してゐたが、その滞英中は幸い英國園藝協會 (Royal Horticultural Society) の役員に推薦されてゐたので、審さにその組織を知る事が出來たが、その規模が大きく内容の優れてゐるのに驚異の眼を見はつた事であつた。

例えば春秋二回の大品評會には、タイムス始め各新聞に豫告は勿論、會期中の報道が大きく取扱はれ、その第一日は皇帝、皇后を始め皇族方も臨場されて奨勵の御言葉等を殘して行かれる。午後には會員のみが入場を許され、第二日は高價な入場料を拂つて一般の人が參觀すると云う次第、從つて協會そのものは財産も非常にあり、附屬の園藝試驗場を持ち、協會の大ホールを有し、圖書館まで持っていて、會員も數萬名に及んでゐる。我國では一寸出來そうにもない大規模なもので之故に斯界の進歩發達に大きな貢獻が出來てゆくのである。即ちサットンやカーターの種子、サンダーやチャレスウィースの蘭等、世界の最高峯である種苗が、次々に作り出され海外に迄廣く賣り出されてゆく原動力の役割をしてゐるとも云い得るのである。

勿論その規模は望むべくもないが、我國にもかかる組織を持つた機關が出來て、國內の園藝を組織立て、進歩向上普及に役立つ事が出來たならと深く感じた事であつた。

偶々昭和十八年の春に、理事部長を始め故石原、大澤、伴田の諸君や現在協會の役員をしてゐる人々の間にこの計畫が具體的に進められ、社団法人園藝文化協會の設立を見るに至つたが、その後の苛烈な戦禍や終戦後の世相から、未だに思はしい活動も致しかねてゐるが、一步一步力強く理想に向つて進みつつあり、今度その一つの表れとして、會報が發刊される事になつたのは、誠に斯界の爲慶びに堪えぬ次第である。

資材その他に不自由な今日、理想的な創刊號が出せないのは残念であるが、會員各位も之を諒とされて、二號、三號と更によりよき會報が續刊されてゆく様に、御協力の程をお願い申上る次第である。

花

育めくら

顧問 本 田 正 次
理學博士

東京の或る女子専門學校の一年生一七一人に對し「我が愛する植物の記」という題を出して自由に彼女等の思つてゐるところを書いてもらつた結果につき感想をのべて見る。

一番多いのがサクラで二〇人、ヤマザクラ、ヒガンザクラ、サトザクラと特に指定したのがこの外に各一人ずつあつたが、男女を問はず、日本人としてサクラを愛好する氣持はラジオの歌できくりンゴの氣持より以上に私にもよく分かる。次はコスモスの九人、スマイレの八人であるが、この外に三色スマイレと名指しをした人も一人あつたから結局コスモスとスマイレとは同點と見てよからう。スマイレの場合には紫スマイレなどと表現したのもあつて果して確な種類は何であるか、うかがうべくもないが、若い女性の愛する花

としてコスモス、スマイレまず當然である。次はキクと書いたもの五人、白菊とことわつたもの二人だから兩方で七人、またキンモクセイが四人、ギンモクセイが一人、單にモクセイと書いたものが二人なのでこれも便宜上三者を合せて考へると七人となる。これも若い女性には好かれそうな花である。キクの外に野菊の風情を讚美したものが四人もあつたが、これは種類がはつきりしないから點數とはならない。バラが四人、外に白バラとことわつたものが一人なので、合すると五人になるが、この場合も野バラと書いて野生の何物を指すのか分からぬのが三人あつた。ウメを愛するもの五人はうなずけるが、若い女性でマツを好むものが四人もあつたことは他との比較上いささか意外に感じたことであつた。

ウメとマツのついでだがタケと書いたものは一人もなかつた。次に何種だか分らないがシラユリとしたものが二人、ヤマユリと想像されるものが一人、オニユリと明記したものが一人なので、これらをユリとして扱えば合せて四人である。ソリージアとスイセンが各三人はむしろ少なすぎる感があるが、ポプラを愛する女性が同じく三人もあつたのにはいささか驚いた。すなわちフリージアとポプラとが同點とは番狂わせの結果というより外はない。ダーリヤ、ツユクサ、スズラン、フクジュソウ、ジンチョウゲ、レンゲ、ヒヤクニチソウ、イチゴが各二票ずつを占めていたが、最後のイチゴは無論オランダイチゴのことでこれは果物として好む意味であることもいう迄もない。チューリップ、ワスレナグサ、カーネーション、ナデシコ、ボタン、キキョウ、ツバキ、サザンカ、ヤマブキ、リンドウ、ハギ、オミナエシ、アザミ、タンポポ、ハス、イカリソウ、ツツジ、シユンランアサガオなど皆一人ずつしか支持者がな

かつたことは淋しい。チユーリツブヤカ
ーネットションなど一七一人のうちだから
も少しは愛する人があつてもよさそうな
感じがする。カルカヤ、ススキ、ツタ、
ナスナも一人ずつの支持者があつた。木
本はいつの場合でもあまり女性に好まれ
ないものであるが、サカキ、カエデ、ネ
ムノキ、ビワノキ、カキ、カラタチ、シ
ラカンバ、リンゴノキ、アカシア、シイ
ボダイジュなども一人ずつあつた。右の
うちアカシアは勿論ハリエンジュのこと
であり、シイはその香に魅力を感じ、ポ
ダイジュは未だ見たことのない木ではあ
るがと註がしてあつた。未だ見ぬ戀とい
うところであろう。モクレンやフジなど
も一人ぐらいは好きな人がありそうなの
のなのに一人も書いてないのはむしろ不
思議であつた。茶味のあるところではバ
ショウが一人、食い氣のあるところでは
チシヤとサツマイモが一人ずつ「我が愛
する植物」がだとえ「我が愛する食物」
でなくても時代の寵児サツマイモを皆か
なかつた残り一七〇人の眞の心のうち、

果して如何。變つた草の名でアメリカハ
マギクと書いたのが一人あつたが、廣い
野原に廣い範圍に亘つて咲いている景色
がこよなく氣に入つたように書いてある
からヒメジヨオンのことではないかと想
像する

以上を綜合して見ると野草よりは庭に
栽培した植物を愛好する人の方が多いこ
とは若い女性としては當然のことと思わ
れるが、中にはまた栽培のものより野草
のつくるわね姿を愛すると書いたものが
三人もあつた。

しかし私が何より意外に感じたことは
「我が愛する植物の記」に對して園藝種、
野生種を問わず自分の好きな草木の名ま
えをこれぞと明記しなかつたものが六〇
人もあつて全數の三割四分強に當ること
である。單に植物が好きとか花が好きと
かだけでは専門學校の生徒の答にはなつ
ていない。もつてまだまだ植物に對する
一般の知識が如何に貧弱であるかがうか
がわれると思う。最近この秋は方々の庭
にコスモスの花が美しく見られるように

なつて、それだけ人々の心も苦しい生活
の中に多少のゆとりができてきたのだと
或る新聞に書いてあつたが、本當に私達
も庭の片隅ぐらには美しい花の一株で
も植えて眺めるだけの愛情を一日も早く
取りもどしたいものである。ことに女性
は男性とちがつて氣ままに山野をかけめ
ぐつて山草野草に親む機會に恵まれない
のであるから、せめて家庭にあつて自ら
好む花卉を植えて樂むことは優しく美し
いものを受するところの女性の本能とし
てもあるべきことだと思ふが。とまれこ
んどの自由な質問に對して好きな花の名
一つ答えられぬ今の若い女性の心は何と
淋しいことであろうかと私はそれを哀れ
にさえ思つた。それは果して社會の罪か
自らの罪かもし社會の罪なら、飽くまで
ものろろべき戦争は若い女性から花に對
する思慕の念をうばつたともいえるし、
また我等教育者にもその罪があるともい
えようが、もし自らの罪とすれば、我ま
た何をかいわんやで、心に花のない人ほ
ど私は哀れに見えるものは外にない。

花卉品種の分類

理事
農學博士 宮澤文吾

品種の定義を次のように定める。「品種とは一作物内に於てその形質が栽培若しくは利用上他と明確に區別し得らるる特長を有し且つ永続的遺傳性を具する一植物群を謂い之を實用分類上の單位とす」。

斯様に定めて置いて花卉類の品種分類を行う方法を考へて見たいが、その前に念頭に置くべき二要件がある。その第一は生物は變化性に富み、我々が永く或は度々栽培する間に從來に見なかつた形質を具えた個體を發見してそれを基にして品種の發達することである。植物分類學上では分類の單位として species を置き、同一種内に在る個體は何れも同一形質を具えるものと見做せる。けれども如何なる species でもそれを詳細に觀察すると必ず各個體間に或程度の差異を見出だし得ないことはない。斯様な差異があるにも拘らず其等を同一 species と認めて置くのは、全く便宜のためであつて、自然界では個々の植物はそれ自體が獨立の存在性をもつてゐる。

只是等各個體は或範圍では共通の形質を具備するからその一群を species として取扱うの^{に過ぎなく} Linnaeus が species を定めた際にはその species の有する形質は永久不變なものと考へたけれども現在ではそうは信ぜられない。それならばどんな原因に依つて變動が起るかを考へて見るに、之には染色體類の變化染色體の交叉遺傳性の喪失又は組合せの變化等がある。そして是等の變化は植物の榮養體及び生殖機關の何れに於ても起るものである。だから生物は其種に固有の形質を永久に子孫に傳へようとすると同時に一方には變化する性質を有するものと謂わなくてはならぬ。

自然に生育する植物には變化が發生することがあつても、例えば斑葉のように生存に不利な形質を帯びるようになった場合には、人爲的の保護が加わらないために何時かわその個體が消滅するか或わ變化した部分だけは消失し通常の部分丈が生育するのが普通である。之に反して生存に有利な形質を

帯びるようになった場合にはその子孫永久に繁榮する。例
えばキク類で染色體數九を基本とするハマギク・リウノウギ
クがあるのに對し一八（フランスギク）、一七（ノヂギク）、
三六（シオギク）、四五（コハマギク）等が自然に成立して
何れも一定の地域を占めて繁殖しているのである。斯様な變
化が発生することがあるとしても自然界には我々の注意が十
分に届かないために變化物を發見することが比較的にな
い。併し栽培植物になれば殆ど各個體を然かも何回かに渡つ
て觀察する機會があるから諸種の變化を發見し易い。栽培植
物殊に觀賞植物には生存に不利な形質を具えた諸種の變化
物の多いのは之を發見し易かつたり且つ保護を加えるからで
ある。

第二には一つの通俗名稱の下に分類學上の二種以上が含ま
れる場合のあることである。例えはユリ・サクラ・マツ・モ
ミジ・ダーリア・ペゴニア・ハオニエ等の如きである。即ち

チツボユエリ	<i>Lilium japonicum</i> HOUTT.
カノユエリ	<i>L. speciosum</i> THUNB.
チカシユリ	<i>L. maculatum</i> THUNB. var. <i>elegans</i> KOIDZ.
ヤマユリ	<i>Lauratum</i> LINDL.
オオユリ	<i>L. lancifolium</i> THUNB.

イロハモミジ	<i>Acer formosum</i> CARR.
ハナチハカエテ	<i>A. japonicum</i> THUNB.
ヤマモミジ	<i>A. ornatum</i> CARR. var. <i>Matsumurae</i> KOIDZ.
イタヤノイグサ	<i>A. Sieboldianum</i> MIQ. var. <i>typicum</i> MAXIM.
イタヤカエテ	<i>A. mono</i> MAXIM. var. <i>eupictum</i> NAKAI
トウカエテ	<i>A. Buergertianum</i> MIQ. <i>Dahlia coccinea</i> CAV.

ダーリア	<i>D. Juarezli</i> HORT. <i>D. rosea</i> CAV.
------	--

ハオニエ	<i>Paronia albiflora</i> PALLAS. <i>P. obovata</i> MAXIM. <i>P. tenuifolia</i> LINN. <i>P. officinalis</i> LINN.
------	---

そこで一作物内に多數の品種がある場合には其等の系統關
係を明かにして置くことは農學として必要であるばかりでな
く、品種を取扱う上にも便利であるから、多數の品種を含み
且つ廣い範圍に變化している場合には、何階級の分類階梯
を設けて作物の系統分類を行つて品種の位置を確定して置く
ことが大切である。依つて茲に現在最も複雑な場合に宛ては
まらせる考で、第一から第五迄の階梯を設けてそれを基本種
・類群・品種基本・品種とする、但し必要に応じて階梯の増
減をする。次號に其例を擧げる事にする。(未完)

遮光材料の經濟的使用と 其の可否

研究委員 穂坂八郎
千葉農專教授

緒言

一九二〇年ガーナー、アラード兩氏に依つて唱えられた成長に對する最適の日照時間と、開花結實に對する日照時間の發表以來、太陽光線の他の光線が各種の植物の發育、生殖等に及ぼす變化に就いて多數の實驗が繰返えされ、一部のものにあつては、之れが實用に應用されて居る事は周知の通りである。

其中花卉園藝上我が國の經濟栽培に重きをなして居るのは、菊の短日性を利用した遮光栽培（園藝上シェード・カルチユアーとか日照制限、短日法等と云はれて居る）が昭和九年頃から一部のみに依つて行はれ、同十二、三年頃から各地

に行はれ、戦前温室經營者の外長野縣に於いては、露地で相當廣い場所に經濟的栽培が行はれて居つた。之等のものは、何れも、夕方に材料を以つて栽培菊の周囲を覆い、光線の透入を遮蔽して、其の内部を出来るだけ暗黒状態に導き、翌朝相當に明るい時刻に之れを取り除いて、夏期の日々の長い時期に短かい人為的環境を與える事に依つて、花芽の形成と發育を促進し、此處に秋開花する翌性のものに於ても、目的の時期に自由に開花せしむる事に成功した。之れが實際的に貢獻して居るのは、栽培期間を短縮する結果土地、勞力の節約、土地の利用、不時の生産の結果價格の低落が少ない利益が大きい。尙開花期を調節する事に依つて、

育種、人工交配等にも利用される様になつて來て居る。

昨年度に於ける状態を見ると、菊の自然開花の生産は、遮光栽培のものに比較して非常に安價に取引をされて居る。之れは一時に多數の出荷を見る關係から、菊のみの消費が一時に増加せねば自然安價になると云えよう。然し其の多量に出荷される前後は品不足の爲に消費の方が多く、長い間高價を唱えられた。多分其の影響と思はれるが今年の栽培は相當に多く自然開花時には菊のみが市場に山の様に集まる事と思はれる。栽培者は之等の無經驗の様な高價な花卉のみの栽培に傾注することなく、何故に高價に取引されるか、亦消費は如何なる傾向にあるか、少なくとも生産せられたものが商品として出荷される以上獨自の觀念のみで栽培する事は危険と云はねばならない。

シェード材料の工夫

從來の遮光栽培用の理想的のものは黒布であろう。アメリカに於ては、シェー

ド用黒布として、一時の間に六四本と一〇四本の糸で織られたものが實用に供せられて居るが、今日の日本に於ては纖維類は容易に求める事も出来ないし、又代用品があつても實際上相當の材料を要するので、覆い物を二回使用する事に工夫する事は多くの人が考ふる事であろう。

アメリカのオハイオ農事試験場のポエツシ氏とローリー氏は四年間試験の結果次の様な結果を發表して居る。即ち

- 第一區 午後五時から翌朝七時迄遮光
- 第二區 午後三時から夕暮になる迄遮光

第三區 夜暗い時から朝十時迄遮光

此の方法に依る第一區は、我が國でも普通に行はれて居る方法であつて、遮光材料は其の面積だけに夕陽と朝日を遮ぎる目的であり、第二區は夕陽のみの遮光である。第三區は朝日のみを遮ぎれば其の目的を達するので、第二回に使用された材料を其の日に再び利用される事となる。其れ故實用上から、シェードに都合のよい状態に床を造つて此處に植込みを

すれば、作業も簡単に済む事となる。

兩氏の實驗したのは七月三日からであつて、日照時間が各區共正確に一〇時間であるか疑念があるが、次の様な成績を發表して居る。

品 種 名	第一區花 開	第二區花 開	第三區花 開
ズー ー グ	10月15日	8月20日	9.12
ー ー グ	10月20日	9.5	9.25
ー ー グ	10月20日	9.1	9.22
ー ー グ	10月25日	9.5	10.1

本校では中央氣象臺の報告に依つて日出日没の時間を基礎にした關係上處理中に毎日變更して、一日の日照時間を九時間四十分とし、朝日、夕日の遮光の可否

と、被覆材料を二回用い得るか否かを判定する爲、次の實驗をなした即ち

第一區、午後四時四〇分から翌朝七時迄遮光

第二區、午後一時二時二七分乃至二時五分から夕暮になる迄遮光

第三區、夜暗い時から朝九時迄遮光

供試品種としては、ゴールドロード、ガルトン、四季の緑の三種を五寸鉢で一本仕立とし、五月二五日から遮光を行つた様な結果を得た。本實驗施行に當つては、主として飯塚宗夫君の努力に依つたものである。尙此の實驗は、今後遮光栽培される人々に直接參考になる點を摘録したいと思う。

朝日か夕日だけの遮光はどんな結果になるか、遮光されることに依つて温度、湿度、光度等が直接生育に關係はあるものと考えられる。

(A) 温度、湿度は菊の生育に於いて三〇度以上になると多くの品種の生育が衰える様である。寧ろ二〇度位の時完全に發育を見られるが、夏期中は自然の氣温

の影響と餘り變化のない様に温室を用い、北面の涼氣を植物の底部から得られる様に工夫したので、各區の溫度は比較的變化を認められなかつた。

(B) 濕度、然し濕度は遮蔽をせられる事に依つて、蒸散せられた水分は其の内部に止まる事は自然であつて、此處に次の様な差異を認めた。

此の結果に依ると、覆いを除去する事

時期 區別	0	4	7	10	12	14	16	18	20
第1區	85%	85	90	72	64	63	64	90	85
第2區	80	78	76	72	64	78	90	85	83
第3區	85	85	88	72	64	63	70	70	85

に依つて、同じ温室内に於ても相當の變化が現はれるが、氣溫の高い時に於ても覆いの無い時には濕度が低い結果となつて居る。

(C) 光度、日照時間を同一にしても、時間的に光度の變化する事は自然であつて、マツダ光度計に依る變化は次の様な結果になつた。此の測定は一番變化の多いものと考えられる七月七日の快晴の場合植物の生長點に近い五〇厘の部分に於て、

	第1區	第2區	第3區	露地參考
午前6時	2.1000	2.100	2.100	5.1000
正午	12.2000	12.4000	12.4000	17.8000
午後1時40分	12.0500	12.4000	12.1000	17.8000
午後4時40分	4.0000	4.0000	4.0000	10.0000

此の結果より見ると、光度は特別に或區に於て特別多いとは認められないが、露地の自然状態に比較すると相當の違いが現はれて居る。(以下次號)

廣葉ウンラン

リナリア・ジャガニカ
ウンランは日本産で渡來品として、(一)細葉——或は西洋——(三好)歐州産多葉生黄色(二)高嶺——歐州アルプス産碧色一年生三柳或姫金魚草一年生明治十二年あり。
(四)紫——中華にては小金魚草一年生北阿(五)變りラン——一年生黄花北阿(六)紫一年生碧黃、西班牙、(七)ウンランカラヅラ(松村)ヒメカラクサ(中井)多年生蔓性常綠黄色、箱根強羅公園には野生化する。等あるけれど常綠で分ではアルマチア地方原産のものが昭和十五年には輸入せられて目録の内に數へられて居るが、黄色花を引つづき夏までつづけてくれるので切花用に花壇植えにも分枝等も可なり澤山に生ずるので面白い。一時植物園でも絶滅させて居たが昨年エチンペラ植物園寄贈の種子から苗が出来て花を見る事が出来た。

——松崎直枝——

dahlia

ダリアの變遷と 現在の傾向

La C. de S. d. d. d.

理事 吉村幸三郎

◇
ダリアの變遷は大體三つの段階に分ける事が出来る。

その一つは昭和初年迄の傾向で、カクタス、ピオニー、デコラチブ等々と各系統の代表的咲方を理想として標準的な花型の線にそつて改良が進められ、特にカクタス咲の優品に主力を傾けられた時代である。例のストレイドウキーク何年輸入と云つた風に作出年代に依り賣買價格が違い、日本種はカクタスでは篠崎氏の半蒔や野口氏の北秀などの銘花が出来、ピオニー咲では篠崎氏の帝冠や陽明等著名の品種が生れたダリア熱狂時代であり

故渡邊氏、故赤松氏の御努力は特筆さる可きであらう。

第二の時代は巨大なデコラチブ咲の流行である。これは昭和初年より昭和十二年迄の間で、特に米國種の影響を受けている。カクタス咲の優雅繊細なるに比し、これは飽く迄も豊大華麗なるを特色としてゐる。加ふるに竹の如く剛直な花梗をそなへ、前時代の花だけを見た目とは異つた新傾向を見出す事が出来る。又デコラとカクタスとの交配に依り、所謂ハイブリッドカクタスが作出され、これは従來のカクタス咲に比し、太瓣だが非常に雄大で花梗強く従來のカクタス咲を

壓倒し、又ピオニー咲もデコラの隆盛に一應忘れられた感がある。

第三の時代は最近の小輪切花用ダリアの擡頭である。もともとロゼット咲とかボンボンカクタス等取扱はれてゐたし、大正十五年頃横濱ガーデンのカタログに英國系スター咲即ちチャームダリアが登載されてゐた。これは今日で云えば小輪ピオニーであるが、一般の趣向がその方向にむいてゐなかつたのか或は趣味をリードするに足る優品が作出されてゐなかつた爲か、とに角これらは重要視されず僅かに切花屋の店頭に出ても竹くしを支えにして用いた有様である。昭和十年頃迄は切花用にはフレイミング、プリンスジュリアナ等の白色系が所謂仕事花として不幸、の花環花籠用に用いられ和種では黄の司、村娘等が色物として用ゐられ、その後鬼頭氏作出のシロガネが白色系の王座を占め、同氏作出の瑞雲又色物として好評を得た。一方洋種ではミセス・アイデアワナーやジャーシース・ピニーテイ等花梗の丈夫な中輪が切花用に登

場し、漸くダリアも切花用花卉として注目されるに至り、日本ダリア會でも切花用種だけを別個に審査致す様になつた。折も折、遠藤氏により銘花ペビローヤルが紹介された、實に遠藤氏こそ、又ペビローヤルこそ切花ダリア隆盛の最大

恩人である。然しこのペビローヤルにも初めは受難の幾年があつた。昭和八年九年と連續品評會に出品されても優位を得るに到らず、昭和十年東京農産商會蒲田農場に於て、大日本園藝組合主催で「

グラフィオラスとダリアの品評會」が開催された時に初めてこの花が一等に入賞した。私事になるが、當時蒲田農場に勤務してこの花を見、祕かにうなづく所あり、後二年現在の處に自營するに及びペビローヤルを一目標に中小輪ダリアの蒐集に取掛つた次第である。遠藤氏赤松氏もこの系統の輸入や實生をやられ又伊藤氏鬼頭氏細田氏等の實生と相まちここに小輪ダリア最盛期が到來した。又海外でもこの頃盛んに小輪系が作出される亂出時代と云う方が適當かもしれぬ



では切花用ダリアの要素は何か？

勿論各人各様に觀點も違うだろうが私は次の様に考へている。

一、花色 どんな色彩でもよいが暗色が含まぬ事が大切。然し明暗と濃淡を混同してはいけない。暗色は澤山集めると暗く汚れて見え明色ならば澤山集めれば集める程鮮に冴えるものである。

二、花型 花型は亂れないものを貴ぶ即ち雜然たる亂れは不可で整然たる狂はむしろ妙である。これはカクタス咲等で特に注目さる可きであらう。

三、瓣質 硬く厚くなければならぬ。この點は切花の生命でもあるのに一般には餘りにも輕視され勝なのはどうした事か？

四、花梗 花は純受咲か四十五度以上に支えねばならぬ。然し次の事は或は私だけの見方かもしれぬが、花輪との釣合上餘りにも花梗のみ太くきつくするのはどうかと思う。よく形容に「竹の如く硬直」と云う言葉が用いられるが、小輪ダ

リアはこれではいけない。私はむしろ等の如く柔軟さを含ませ度い、外觀は柔かく然し實は強靱に外柔内剛にし度いと思う。この邊の含みが其の品種の持味となつて現われると思う。

五、葉色 葉色は花色と相對的な問題であるが黃味を含ませ鮮緑か濃緑がよいと思う。私は黒葉ダリアを一方の親として照葉を好んで作つている。

六、葉付 日本流には首近く迄小葉をつけ度いし洋式にはむしろ花梗の長いものを使いよいので結局夫々の方向に進むものと考え。

七、葉型葉質 葉面積の大小は直接水揚のとも關係を持つもので従つて花との釣合のとれる範圍で出来るだけ小さくしたいものである。大型の場合は莖葉の様に欠刻を多くして全葉面積を小さくする。葉質は出来るだけ厚く硬くし、又葉端の垂れぬものが望ましい。従つて葉の脚即ち葉柄は出来るだけ短かいのが宜しい。以上縷々述べたが要は花葉枝全體の調和が大切である。觀賞植物は見た目に美

しく感じがよければよい。イデオロギーで見るとではない。其の他樹性強健で秋花率の多い事、或は切花に差支えない限り葉丈の低い事など栽培上大切な事である。



以上は切花用種としての要素であるが私は次の様な夢を描いて實生を行つてゐる。

一、バラ型 親としてデナイーペアに葉の色澤や花梗の強靱さを加える爲に黒葉グリアを用いてゐる。大體基本の型が出来たので他色の花を交配中であるが他のものを持つてくるとどうも花型がくずれて閉口してゐる。バラの様に花弁の外側から一瓣二瓣と力強く開花し、花弁は出来るだけ廣く圓くそのかわり花弁の数はむしろ少い方が上品である。押すな押すなと重ね合うのは華麗ではあるが品がない。開花の當初花心を包んでいればよい。斯う云う花弁の少いものは秋には露心し易いものであるが積極的に花心も觀賞上の一要素とはならぬだらうか？ 普

通は黄色であるが黒心赤心緑心など花心だけでも大いに樂める。従來の觀念では花心の出るものは一概に劣等種ときめてかかつていたが、それではピオニーはデコラチブよりも劣等かと云う事になるがどうした事か？ 特に黒葉グリア等は花心を尊重したい。例へばビショツプ・オプ・ラングフ等花心の黒い輝があつてこそ花全體が引締つて一層の美觀を添えてゐる。

二、ラナンキュラス型 春の花、乙女椿の可憐さに誰もが魅せられるに相違ない。この乙女椿を小型にするとラナンキュラス型になる。整然と揃つた花弁、くつきりと圓い花型、ボンボンとは異つたたまらなく可愛いグリアが誕生する。ボンボン咲と小輪デコラチブ咲との組合せで出てくる筈である。

以上二つの例を挙げたが私のねらつてゐるのは種小輪のもの許りで單に花だけから云つたら或は退化かもしれぬ。然し花と云うものは妙なもので大は小を重ねない。小輪は小輪としての用途がある。

花梗は絶対に受咲にしたい。日本の花は床の間に飾つて見下す位置におかれて觀賞されるものであるから自然純受咲が必要で、その點、海外で棚やテーブルにのせて見上げる位置に置く爲にゆるやかな傾向でよいのは根本的な相違點がある。

從來グリアは芽掻をやつて一莖一花に咲かせる習慣である。將來種小輪が發達した場合その活花等に用いる場合むしろ小枝の二三はついたままの方が味がある。その爲には小枝や枝の縁の美しさが非常に大切になつてくる。ここに新しい日本のグリアが誕生する。

夢は夢を追い、新しい夢を無限にむすぶ。

元來インスピレーションのない改良等は何時迄経つても同一水準を彷彿するのみである。今にして飛躍的着想のもとに確固たる目標を定めて改良に當らねば遂には永遠に歐米グリアの後塵を甘受せねばならず文化國家建設も水の泡である。園藝家通常に夢多かれ。

「古きバラ」に就いて

What We Owe Old Roses

ジエー・エル・プロバン
轟 い ば ら 譯

譯の前言

どちらかと云へば身體の弱い私が思いもかけぬ應召で、一兵卒としての二ヶ年の生活は、全くばらや花や土とは縁のないものであつた。しかも期間を一人で背負つた様な氣で、おかどちがひの社會に全精力を傾けた二ヶ年は、大きな空白となり、ハンディキャップとなつて私を三十年後まで立たせる。

多くの人達からの援助と厚情で漸く續つたばらの原種の蒐集や文獻の調査も今はすべてやり直しであり、すべて再出版に期待せられている。

この今一九四六年の新版である歐洲及び

新西蘭のばら協會の會報が到着、歡喜に浸りつつ瞥見したが冒頭の十九頁に渡る論文がなかなか要を得て素晴らしいと思つたので翻譯し園藝文化協會員に讀んで頂くことになれば幸甚だと考へた。

考へるまでもなく耐乏生活の中でのばらの勉強は文字通りの荆棘の道である。しかし之は私の使命であり運命であり宿命であり、一切が生命であるとしみじみ考へて居る。

車淨から見た Old Roses は 又私自身から稿を改めて書きたいと思つてゐるが、この譯文を讀まれた方の中で御叱正、御鞭撻、御希望を賜ふ事が出来れば私にとつて之以上の嬉しさはない。翻譯に當つて實兄の

語學的援助と、加藤光治氏、松崎直枝先生の御厚情を心より深謝する。

尙、この原文の著者 J.L. PROVAN は 歐洲ビクトリアアバーンレイの園藝學校の校長である。

私も Old Roses に就ては嘗てこの他に何處も讀まされたが、斯くの如く確にも分る様に而も徹底的に書かれたものは無いと信ずる。世界のばらの文獻中での珠玉として輝然と光り輝くものであらう。

殊に今なほ他に比なきドイツのホルテスの作出せる銘花タリムスン・ダローリーの系統を解くに到つたことは驚異に値するものであらう。

取へて翻譯した所以である。

序 言

先づこのような題目では、歴史・地理、植物學及園藝を併せて考へなければならぬ。この論説材料が全部私のオリヂナルなものでないことは非常にはつきりした理由のあることで多くのばら研究家のなした研究に依つた事を私は認め、感謝する。そして時にはその細部に涉つてはまごつかせられることがあつたが、又それにはいつも私はうつとり、興味をもつてなした。

ただ諸君にお話しなければならぬことは古いばらに就ては轉進に説法であることである。

オールド・ローゼズほどの位古いか？
確かにはわかつてゐない。我々の昔の仲間には忠實な記録者ではなかつたしバラ協會やバラ年報は歴史的に言つてもごく最近のものである。

オールド・ローゼズを全部について述べる時間も買もないので主としてハイブリッド・パーメチユアル(一、二季咲大輪系ばら)とハイブリッド・テイ(一、二季咲系ばら)の祖先の或るものに限ることにした。私は「バラの品種はどの位多いか又栽培

されてゐるか」と聞かれる事がよくあるが私にはわからない。然しマクファランドはその著「モダン・ローゼズ第二版」に四八三三種を載せ、そのうち二、五九三品種、(即ち五二%)はハイブリッド・テイ・ローズで一七七品種がハイブリッド・パーメチユアル・ローズ、僅かに六六品種がテイ・ローズである。

(註・モダン・ローゼズ第二版 (Modern Rose) は嘗てアメリカン・ローズ・ソサエティのマクファランド氏(J. Horace McFarland)が一九〇四年に著したもので期界の寶玉の著である。戦争中の補遺を加へて一九四六年に再出版されたものがあり日本には一冊入國出来たものを先私は日管見した。)

バラ種裁の時代

十九世紀の初期迄は種裁されたバラの品種の大多数はバラの原種か又は原種から撰んだ品種或は原種からの芽條變異(枝變り)や突然變異(變り種)や又はそれらの淘汰或は又偶然の實生や、ばらのやぶの中から集めた種子から栽培したバラの更に偶然の實生であつた。或る場合にはこの偶然の實

生は種交が少くとも蜂や他の昆虫のやうな自然の媒介者に依る交配者であつた。人類は十八世紀の後期や十九世紀の初期間は植物の種を作り出すことを知り初めてゐたに過ぎなかつた。そしてある種類を人工的に受粉し始めたに過ぎなかつた。この古い原種はどんなものであつたらうか？ 或るものは現在の植物園やバーンレイの園藝學校で今日見られる——即ちローズ・シネンシス、ローズ・モスシヤタ、ローズ・ルゴイズ、ローズ・モエシ、ローズ・オドラタ、ローズ・ガリカ、ローズ・センタイフロラ、ローズ・フェティダ等である。

この記述ではバラの一〇〇の原種を全部書けないので、その中、最も重要な原種の中、八種に限ることにしたと思ふ。次の圖表はこの大元原種の植物學的分類の八の原種の位置を示してゐる。(第一圖表)

私は最初に第五セクションのガリカを扱ふことにする。といふのはこの原種はヨーロッパや西アジアに自生してゐるし、古代ローマや英國で栽培されたバラ全部のうち最も古いものを含むからである。

ガリカ (R. gallica) この原種はフランスイタリー・スペイン及びオーストリアが生れ

第一圖表

種	亞種・變種・亞變種	種	亞種・變種・亞變種
屬	屬	屬	屬
Genus	Sub Genus	Species	Subspecies Varietas Subvarieties
ばら	バラ	種	種
ノアゼツト	ノアゼツト	第三セクション インデイカ (アジア原種) 四季咲の基として最も大切なる原種	オドトラ系 シネンシス (チャイナ系) ノアゼツト (シネンシス) Xモシヤタ ブルボニカ (シネンシス) Xガリカ
フルアミア	フルアミア	第五セクション ガリカ (歐洲及アジア)	ガリカ センテイフロラ (キャベージ又はモス・ローズ)
HULTHEMIA	HULTHEMIA	第十セクション ルアア (アジア原種)	ダマス・セナ ダマス・ローズ (多分交配種と見られる)
第一セクション 草葉・無托葉 黄色花	第一セクション 草葉・無托葉 黄色花	例第一原種 ローズ・ペリカ <i>Rosa perlica</i>	フエテイダ (ベルネシア系原種)

譯註 日本のばら界に於て原種といふは

上の圖表の種、及亞種、時には變種、亞變種をも及び通常の現代つ觀賞ばらはその下の FORMA に屬してゐる。オールド・ローズを此の圖に依つて示すならばこの表のすべてが含まれると言へる。

圖表中の説明は、譯者のペーレー氏エンサイクロペジヤに依る註釋である。

放蕪である。それは引續つた嗜好をしてゐる五呎以下の直立した灌木で茎には小さい剛毛に群生した刺がある。横に這う地下根を持つてゐる。花は直径二—三吋あり花色は深い桃色が紅色でしつかりした花梗即ち茎に頭をのつけられる。花の中央は低く、柱頭その他はよく見えらる。

この原種の一品種、ローザ・ムンディ (*Rosa Mundi*) は紅と白の花弁をなしてゐる。ローザ・ガリカは夏咲種で強い芳香を有してゐるが太脚の光に色があせ易い。

セントイブオリア、キヤペーシローズ (*R. cantifolia*) (これは誤つてプロヴェンスローズ *provençe Rose*) と呼ばれる事が多い) これは西部コーカサスが生れ故郷である。前者の原種と相似してゐるが地下根があまり這はないし刺がしつかりしてゐる。花は一つで長い花梗の上に下向きに咲き、多くの花弁はキヤペツの葉の縁に重り合つてゐる。これが通稱の所以である。原種の名は一〇〇枚の花弁の意味である。

これらの花が完全に咲くのに良い天氣が欲しい。この理由があるがために養分、この苦勞を含む新しいペラは春よりも秋の方がよい傾向がある。この原種と、その枝變りや

實生の多くは二千年の間栽培されて来て、時や繪や文章で非常に有名であつた。花は非常に芳香があるのでペラ水の素として用ひられた、葉は盛上つて美しい。初期この原種又は非常に近い系統の数千の苗木が香水生産の目的でウイクトリアに輸入されたが工業は創められなかつた事を序に興味を以て記して置く。

ダマスセナ (*R. damascena*) ダマスタロース (*The Damask Rose*)

これはガリカの雜交種であららしい。タルサアス (*Crysaëdes*) の時代にシリアから英國へもたらされたものである。成育は幾分ガリカに似てゐるが一寸か弱く、背も高くもつと莖性になるし、這ふ地下根がない。葉は数多くしつかりしてゐて鋸の縁に曲つてゐる刺があり葉は革質で碧緑 (アオミドリ) でうぶ毛がある。花は八重で赤、桃や白、時には雙りもあり、夏咲である。十九世紀の初期にまかのばればダマスタは英國の所國では素晴らしい流行見だつたのである。品評會出品者のペラとして評判のよかつたのは勿論だが、非常に甘い香りも決して少くなかつた。

ヨークアンドラ・カスター (*Yorkand*

Lancaster) は一番よく知られた品種の一つである。三十枚花弁花と稱せられたダマスタローズはペラ油の生産のために南東部歐州で主に栽培された品種である。

第三セクシヨン——インディカ (*Indica*) は今注意を求めなければならぬ。名前が意味する如くこれはアジア的な血統から成つてゐる。初期のペラ交配者はこのグループのいつも咲く性質を利用した、そしてそれはわが現代のペラの特長となつたのである。

ローザ・オドラタ (*Sunkert*)、テイローズ (*Rosa odorata Brevet*)、The Tea Rose この葉ばらは西部中華が生れ故郷で實際には常緑である。その八重の花は通常白か、うすいピンクか、鮭肉色のピンクか、又は黄ばんだ色であり、特徴ある茶の香がある。英國に於ては十八世紀の終りと十九世紀の初めに中華の茶香ばら (*Chinese Tea Rose*) は知られる様になつた。

「四季咲紅」は甘い香ひのする品種で黄色茶香ばらについて一八二四年に出た。

これらのペラは後に互にかけ合はされ又レネンシスの品種とかけ合はされペラの系統の發展となりタイ・ローズとして知らる

る様になつた。

ローザ・シネンシス・シヤクイン、チャイナ・ローズ (Rosa chinensis Jacq. The China Rose) のシムラはそのきやしやな枝と共に極めて丈夫で適應性があるが剪定なしに育つのが好きである。時には刺なしのがあるが、通常このばらを見出すときは刺はしつかりして押付けられた如くなつて居り、多小鉤形に曲つてゐるものが存任している。そしてそれらの刺は細い枝を擁護するのに助けとなつてゐる。

葉は深い緑色で光つて居り株は殆んど常緑である。花はやや小さく直径二吋位であり、普通は紅色かピンク色で軽い香があるかないかのところである。

花は太陽の光で照らすむ個面がある。然し乍ら其の特殊すべき特徴は絶えず咲くという習性にあつた。

他の二つの原種は茲に含まれるに値するといふのはわが現代のばらの祖父株を作るに當つて他の多くの原種と共にこれらによく用ひられたからである。そのためこれらの中の簡単な記述を含めた次第である。即ちローザ・ノアゼツタイアナ (ノアゼツト・ローズ) (Rosa Noisetiana Thoy The

Noisette Rose) これはシネンシスとモシヤタの交配種と考えられるが、一定の赤つばい鉤形の刺がある直立してつるに伸びる莖を持つて居り、花は木香ばら (Banksia Rose) に似つた様に勝になつて咲く、

これは力強い花型で麝香の芳香を持つて居り。夏から秋にかけて咲く。これは十九世紀の初めにアメリカで創作され、初期の品種でこの他に目立つた例としてはウナリアム・ブレン・チャードソンとかレマルクとかアイミー・グ・バートがある。

ローザ・ブルネニカ (ブルネン・ローズ) (Rosa Bourbonica Morr. The Bourbon Rose) このシネンシスとガリカとをかけた後裔の良い芳香と寒氣にめげぬ強さと奔放に咲く性質はハイブリッド・パーメチユアル・ローズが到着するまで素晴らしい人氣があつた。

オーストラリアに於ては一九〇〇年の頃迄人氣があつた。その八重又は半八重の花はいつとも輝かしいローズ色をなして夏から秋にかけて咲いた。一八四〇年から一八六〇年にかけてブルボン系はダマスタ・パーメチユアルとオドラタの交配に依つて一層改良されその系統は發展してブルボン

・パーメチユアルとして有名である。しかし残念なことには、初夏の氣候はこの速やかな生育には暖かさが充分でないため、夏の花は屢々失敗に終るのであつた。だが秋の花はなか／＼良かつた。

言及しておきたい最後のセクションはローザ・ルテアとローザ・フェテイタ (Rosa Lutene Rosa foetida Herrm)

である。これは通常オーストラリアン・ブライア (Austrian Briar) と呼ばれている。生れ故郷は西アジアで、ひよる長く、きやしやな莖の光つた褐色の莖にまつ直ぐな刺を持つてゐる。

葉は深い緑で、花は單つ昨年伸びた枝のわき芽に出来、直径二・二・五吋の輝く黄色に咲く。これらはいやな香りがあるので特有の名がつけられ、この花は完全に咲き切れぬし病氣にも罹り易い。

フェンチイダ・ピコラー、即ちオーストラリアン・カフパーは一つの花に黄色い裏側にオインヂ紅の二つの色彩を持つてゐる。

(續く)

昭和廿二年度

ガーデンビューロー報告

理事 伊藤 東 一

(まへがき) 各地に多少の風水

害があつたとはい申しながら要作に

基まれ加ふるに遊駐軍の放高物資

によつて食糧事情も多少やわらぎ

まして花卉園藝に關心をもつ者も

追々増して参りました。又公園の

花壇も美しく彩られ花博園藝園

の活動も始まりました。幸にも公園

各位並に協會諸氏の御力を得て

大満なく所期の目的達成の爲めに

努力し得られました事は喜びに堪

へないと共に厚く感謝するところ

であります。ここに簡單ながら昭

花卉園藝團體の動きもありまし

園藝團體との連絡

- 四月十三日 日本ダリア會役員會
- 七月廿日 閉會
- 十月四日 東京園藝會
- 二月六日 東京園藝會
- 四月廿九日 東京園藝會
- 四月三十日 東京園藝會
- 五月七日 東京園藝會
- 五月九日 東京園藝會

園藝組合とらん陳列
會開催打合せ會

五月十四日 甘藷、トマト首用賣

會打合せ(都府農場

生産品)

五月廿五日 日本園藝組合理事會

開催

九月三日 都府農場

開催

六月十日 都府農場

開催

十月十一日 都府農場

開催

十一月七日 日本赤十字社「花の

日」打合せ會

十二月廿七日 日比谷公園花壇打合

會

二月七日 東京園藝會設立及展覽

會打合せ會

三月十五日 東京園藝會

開催

一月十八日 「種子と苗の日」開催

準備會

三月三日 「花の日」開催打合せ

會

一月廿一日 東京園藝會協同組合

設立相談會

三月十日 東京園藝會

開催

得る限り懇切丁寧に相談申し上げ
てきました。が園藝の常として時期
的に又場所時間的に集中される
ので致意を缺く事もあるかと思ひ
ました。尙、時々栽培その他の相
談會を開きました。重なる事項は
次の通りです。

- 四月十七日 コサージュの作り方の
お話 鈴木 講師
水仙の話 伊藤講師
- 五月十七日 芍薬の作り方研究会
茄子、トマト、カボ
チャの作り方に關す
る座談會
- 五月廿九日 甘藷栽培に關する研
究會
- 六月十七日 甘藷栽培に關する研
究會
- 七月十九日 ダリアに關する研究
會 講師 北海堂吉田
ダリア園主
- 九月廿九日 園藝に關して水害對
策研究会を開く
- 品評會及び展示會開催
- 日比谷公園陳列場に於て品評會
及び展示會を盛大に催したく熱心
に努力しましたが、何分にも花の

種類がよくなつたのと趣味の栽培家も苦境にあり戦前の盛大に達する事は容易な事ではありませんが幸ひ各位の御協力を得て次の催を得たのは幸です。

四月十五日 花卉デザインクラ
ブと共催水仙を主と
したデザインの展示

四月十八日 水仙新種展示會二
號陳列所にて開催し
て好評

四月廿日 梅福の會と共催。種
展示會。立川の都農
事試験場、新御苑
其他から櫻の各陳設
十點出品を得て展示
會を開きましたが折
悪しく風雨の爲盛大
とはゆかなかつたの
は残念でした。

五月一日 協會主催、櫻草展示
會。二號陳列所にて
開催、数ヶ所より出
品を得まして盛大で
した。

五月十三日 蘭華組合と共催。一
號及び二號陳列所に
て開きました。組合
から見事ならん花の
出品を得まして盛會

五月十六日

に催されました。
芍薬展覽會一號及び
二號陳列所にて多数
の出品を得て盛大に
催されました。

七月十九日

協會主催。ダリヤ品
評會。一號陳列所に
て多数の出品を得て
開催。

十月四日

協會主催。ダリヤ秋
期展示會。一號陳列
所にて開催、百數十
點の出品にて繰る盛
大でした。

十一月三日

協會主催。菊花展覽
會。秋香會重陽會黒
龍會の協賛を得て一
號及び二號三號陳列
所に於て開催種類及
び材料不足の折から
多数の出品を得まし
た事は喜びに堪へま
せん。出来栄は未だ
戦前に比して劣るの
は止むを得ないとは
言へ残念です。

新品種の紹介

小石川植物園千葉農専其他園藝
組合員文化協會役員各位の御協力

を得て新品種の紹介に勉めました
幸と多数の新種を紹介し得られた
事は喜びにたえません。

種苗の頒布並に普及

開設以來各位の御協力により各
方面に順次知られまして新品種及
び優良種苗の頒布を希望する向も
順次増して来ましたので各所に移
殖して其實現に努力して来ました

五日廿四日より都府農産局生産の
甘藷、トマト、カボチャ苗即買
六月十四日、七月一日都民緊急
食糧増産のため経済局指示により
配給に協力しました。其他臨時適
期に園藝組員、植物園、農専、
試験場等の委嘱を受け頒布に努力
して来ましたが頒布の希望者多き
ため理事會の承認を得て農林省、
東京都の優待を得て有力なる種苗
業者に委嘱して三月より毎土曜日
に「種子と苗の日」を開催し種苗の
相談及びその頒布に努力してきま
した。種苗の日参加者は次の通り

日本農林種苗株式會社
北海道農産種苗株式會社
北海道農産種苗株式會社
タキイ種苗株式會社
東京種苗株式會社
横濱植木株式會社

帝國種苗産産株式會社
ヤマト種苗農具株式會社
サカタ種苗株式會社 果實協會
其他臨時各園藝團體にも委嘱し
て其普及に協力を依頼しまして多
少なりとも目的を達した事を喜ん
でおります。

日比谷公園花壇に協力

公園花壇も戦時中は殆んど食糧
増産に向けられて来ましたが戦後
急に花に置き換へるよう努力さ
れて来ましたが何分花の私類殆ん
ど一掃され容易な事ではありませ
ん。私共も協力して其實現に努め
ましたが公園各位の絶大なる御努
力によつて日毎に戦前の花壇の様
に美しく彩られ始めつつあるのは
御同慶の至りです。

其他(イ)園表標本の陳列と解説
参考資料の展示(ロ)散回に涉り
種子の無料配布をなし學校、病院
等より喜ばれました。(ニ)萬國
赤十字記念日(十一月十日)には
日本赤十字社と協力して「花の日」
を開催しました。(ハ)水害による
被害対策研究會 十月二十一日江
戸川東京都農事試験場にて水害に
よる種苗育成地の回復の爲各地よ
り種苗の提供を得て復舊に協力し
ました。

事業経過報告

自 昭和十八年度
至 昭和二十二年度

本協會が設立されてから既に五ヶ年、この間會員の皆さんに事業の報告やら園藝界の消息やらを御知らせし度いと思ひながら、會報の發刊が思うに任せず今日に至つたことは誠に残念であり、申譯ない次第である。茲に漸く會誌第一號を御手許に届け得ることになり、今後二號三號と順次發刊される豫定であるから何分の御挨拶を御願ひし度い。次に本協會創立以來の概略を記して會の事業を御知らせし今後の發展の参考に供し度いと思ふ。昭和二十三年盛夏編者。

事業経過の概要

昭和十八年度

世界に於ける有數の花辨園藝國でありながら、その進歩や普及を計る組織や指導機關に缺けているのを遺憾に思つていた有志が、より一層協議を求めていたが、漸くその機が熟して、十一月中旬に小石川植物園で創立總會が開かれる運びとなり、社団法人園藝文化協會が結成されるに至つたのである。先づ當面の計劃として、戦時下貴重な園藝品種が續々と失われてゆく状態なので、これが保存を行うために次の事業が取り上げられ直ちに實行されたのである。

一 調査カードを會員に配布し保存を要する品種の所在、現在の状況等の報告を依頼した。
二、右の報告に依り品種産根を作成し保存の必要を認めた品種の所有者に對して、保存勸誘狀を送り、その品種の貴重な事を認識させ、協力保存に努めさせた。

昭和十九年度

前年度に引續き品種保存に努めると共に、その傍ら次の事業を實行した。

▲梅の花合せ 三月五日小石川植物園にて開催。千葉農専小石川植物園及び他から集めた品種を比較研究し、終つてタンポポの試食を行う。

▲講演會 三月二十六日小石川植物園にて開催。「古文獻調査と其必要性」理事農學博士宮澤文吾氏。講演終了後「時局と園藝」につき懇談會を開く。

▲ツバキの研究會 四月二十二日小石川植物園にて開催。埼玉縣安行の皆川治助氏及び千葉農専其他より九十五品種を業め農學理事石井勇義氏の「ツバキの品種について」の講演が行われた。

尙石井勇義氏所蔵のツバキ寫生

圖が出品された。

▲ダリア研究會 七月二十三日小石川植物園にて開催。赤松哲助吉村幸三郎氏等蒐集のダリアを展示した。尙吉村氏の「ダリアの品種改良の動向」の講演が行われ、終つて食用野草について宮澤文吾、石井勇義兩理事の話があつた。

▲甘藷料理研究會 十月二十九日砧大綠地にて開催。主要食糧となつた甘藷を取り上げて、これが調理法の研究、試食會を行つた。一戸伊勢子女士を講師として、營養と美味の點を考慮した十數種の料理を試食研究した。

昭和二十年

戦争が愈々となり保存その他の事業の重要性を痛感しながらも、戦しき時の流れに何ともし難く、止むを得ず一ヶ年間を空しく過して了つた。

昭和二十一年度

▲ガーデンピニエロー(園藝輪旋所)の開設 事業の一つとして

東京日比谷公園内に設置され、理事伊藤東一氏が一切の運営と責任を負っている。即ち三月三日に開設され、同氏指導の下に園藝相談、種苗、器具、薬品等の幹旋、園区生産品の展示、講習會等を次々と催し、都民への園藝普及に努め、非常な好評を得ている。(別項報告参照)

▲櫻と椿の會 四月二十日より二十四日まで日比谷公園陳列所にて開催即ち東京都後援、梅櫻の會と共催で、種々な困難を排して多数の品種を集め非常な盛會で一般都民は勿論進駐軍の參觀者も多く好評を博した。

主なる出品は里ザクラ三十品種(東京都農試、神奈川県農試、新宿御苑)サクラ盆栽九鉢(田中啓文氏)ツベキ二百餘品種(皆川治助氏、千葉農専、都立園藝學校)又二十一日には皆川治助氏のツベキ品種の説明があり、更に名稱不明の五〇品種の鑑定が行われ、終つて瀧澤邦行氏の

「新しい櫻の觀賞態度について」講演があり、同氏近作の櫻の繪を觀賞した。

▲贈引園き本年度日比谷公園陳列所及ガーデンビュローで催された事業は次の通りであつた。

▲日本櫻草の陳列四月下旬から五月上旬特別陳列場を作り小石川植物園培養の百數十鉢を展覧。

▲ダリア品評會 七月十八日及十月十七日より廿日迄

▲甘藷品陳列會 十月廿日より廿七日迄都公園陳列所緑地に試作された甘藷六十種を展覧。

▲南瓜展示會 十月下旬より十一月上旬。

▲茄子とトマト、胡瓜と南瓜の作り方講習會五月十日

▲甘藷の作り方座談會 六月十日。

▲たべられる野草(五月七日)とこれら食へてはいけない野草(六月五日)の講習會を佐藤茂樹氏を招いて開催。

▲秋時野菜についての座談會 八

月廿五日。

昭和二十二年度

▲種子の頒布、春及秋十月の二回特志家より提供の輸入種子及純系種子等一般に入手困難なものを會員希望者に頒布した。

▲梅まつり、三月十五日より十六日まで梅櫻會と共同主催で日比谷公園にて開催。新宿御苑、濱離宮、都公園緑地課、千葉農専、小石川植物園等より三十品種の出品があつた。尙品種展覧と同時に活花(古流理正派、小原流)十二基が出品され、十五日には理事松崎直枝氏の講演が行はれた。

▲日本草の會 五月一日より十二日迄日比谷公園陳列所にて開催。

▲小石川植物園より百餘鉢、帝國種苗殖産會社より八十鉢が出品された。

▲蘭花展 五月十三日、十四日の兩日日比谷公園陳列所にて又十一月七・八兩日日本橋三越にて、日本蘭業組合主催本會後援で開

催。拘欄たる出品物に進駐軍をはじめ一般參觀者が續々とつづき讚歎の聲を放ち、我が國園区文化の水準の高さを認識させ成果を納めた。

▲芍薬の會 五月二十二日より二十五日迄日比谷公園及び日本橋高島屋にて開催。出品数約一三〇點、尙理々宮澤文吾氏は二十七日高島屋で牡丹、芍薬に關する有益な講演を行はれた。

▲花菖蒲の會 六月二十一日明治神宮内苑に於て開催。久通朝融氏始め多数會員出席松崎直枝氏を中心にして花菖蒲に關する懇談會を開き、終つて苑内を參觀した。

▲甘藷まつり 日本植物園協會と共催で十一月三日午後一時から小石川植物園に開催。青木昆陽先生、慰靈祭の後農林校官加藤要氏、及理學博士安井コノ女史の講演があり、終つて一戸イセ女史に依るすぐれた甘藷料理七種を試食した。

協會だより

□會員章と賞牌の制定、本協會の評議員で彫塑界の權威である朝倉文夫先生が新しい構想の下に只今制作をされて居りますので、遠からず素晴らしい會員章が出来上る筈です。又協會主催及後援の品評會其他の催物にも賞牌が授與される事になる豫定です。

□近い内に會員證を御送りする事になりました、そしてこの會員證は之を呈示する事によつて協會特約の種苗會社から割引購入が出来る等、其他種々の特典を附與される事になつて居ります。但し會員證は會費未納の方には送られません。□會費の値上げ、社會狀勢の著しい變化に止むなく、先頃の總會で會費の値上げを決定し左の通り變更致しました。何卒御諒承の上至急御納入をお願い致します。

普通會員 年額 金百圓也
特別會員 年額 金參百圓也
贊助會員 一時金 金貳十圓以上

□種子と苗の日、今春三月から五月まで毎土曜日、日比谷公園で開催した「種子と苗の日」は非常に好評でしたので、今秋も亦更に内容を整へて、八月五日から開催されます。都内や近郊の會員は直接おいでの上利用下され度、地方會員もガーデンビュローへ氣付で左記各社宛種苗購入質疑應答等をなさる事が出来ます、但し返信料等は必ず添へて下さい。今春同様左の八社が出張する豫定です。

坂田種苗 タキイ種苗、東京種苗、帝國種苗殖産、日本園藝種苗(北タネ)日本農林種苗、ヤマト種苗、横濱植木

□秋蒔種の子頒布、毎回申込が殺倒し大變な好評なものと地方會員の利便を考慮して今後益々充實させて參る筈です。輸入及一作のシクラメン、パンジー、スカピオサ等今秋は主として草花の種子を頒布する豫定で、目下提供者と接渉中です。近目中に御知らせ出来ると存じます。御期待下さい。

編集後記

□昨年の今頃は既に發威されている筈の會報が最初に編集を引受けて居たK君の都合や、印刷所の都合等で延び延びになり、その間に世情が著しく變化した爲に、計劃の體裁や内容とは凡そかけ離れた、此程度のものをお容赦して頂く事になつて了つた事は誠に残念であり且つ申譯ない次第である。

□例へば宮澤、穂阪、藤氏等の記事を分載する事にしたリ櫻井東駒村氏等の有益な記事が掲載しか

ねたり、不備な點が甚だ多くこの點を執筆者及會員に深くお詫び申上る。

□然し直ちに第二號の編集に取りかかる筈なのでお氣付の點や御希望等御申出を頂きそれに依つて出来る丈御期待に添ふ様な會報にして行き度いものである。

□毎月發行出来る様になれり理想的であるが、しばらくは不可能なのでその不備を補ふ爲臨時四五頁程度の通報を發行して地方會員との連絡をとつて行き度いと思ふ

園藝文化第一號

非賣品

昭和二十三年八月二十日 印刷納本
昭和二十三年八月二十五日 發行

編集兼
發行者

加 藤 光 治

印刷所

東京都新宿區新宿二ノ十八
榮 光 社 印刷所

發行所

東京都文京區白山御殿町一〇六
東京大學理學部附屬植物園
社団法人 園藝文化協會

日本唯一
花ダネ専門
草花種子生産
惠比壽葉系朝顔育成
卸小賣

日本園藝種苗株式會社

東京都杉並區永福町三四六
電話 松澤 三五一三番

(園藝要覽
實費十圓)

創立明治二十四年

橫濱植木株式會社

本社 橫濱市南區唐澤十五番地
營業所 京都・大阪・札幌・東京吳服橋
試作場 平塚・水戸

營業種目

農産種子・植物・百合根・球根
苗木・噴霧器・造園・温室ノ設計
園藝器具一切・農園藝藥品
生 産 卸 小 賣

◇ 蔬菜種子 草花種子

◇ 草花、球根、果樹苗

◇ 山林種子及苗、造園及設計

◇ 農園藝器具、農園藝用藥品

帝國種苗殖産株式會社

東京都北區瀧野川町(省線板橋驛際)
電話板橋(96)一九三三・〇一一九番
賣店 瀧野川本社前及東京驛前丸ビル一階
農場 千葉育種農場・小金井園藝農場

(カタログ進呈
要郵券五圓)

○ 日本一を誇る

○ ヤマトの種子と

○ 三笠印農具

營業目錄

蔬菜・花卉
牧草種子
三笠印大型農具
農藥・農書
其他園藝用具一般

ヤマト種苗農具株式會社

(種苗農具目錄
要郵券 五圓)

東京都豊島區目白町三丁目
電話九段(33)一七一五・一八〇〇番
札幌出張所 札幌市北四條西二丁目